

小学校3年 映像（教育番組）で学ぶとは、どういうことか ～子どもの分かり方をもとに～

さいたま市立浦和別所小学校 石川 秀治

【実践報告の概要】

道徳の学校放送番組を視聴した時、児童はどのように思考しているか、通常の活用に加え、違う点からもアプローチした。通常は番組を視聴した後、自由に話し合い、考え議論する。道徳的価値について3年生なりに考えられていると感じる一方、反応（思考）の早い児童によって話し合いが進み、メタ認知しているだろうかという思いもあった。そこで、話し合いをせず、頭の中にあることを自由に紙に書かせ、視聴したことでどれだけ考えているかも行った。以上の実践より、映像で学ぶとはどういうことか考察した。

【取組の具体】小学校 3年 道徳

活用番組「もやもや屋」

通常の活用

1. 番組視聴

2. 話し合い（空発問）

はじめ：感性的認識による発言

↓ <教師による板書への位置付け>

後半：友達の発言を関連付けや自分の意見の見直し（理性的認識）

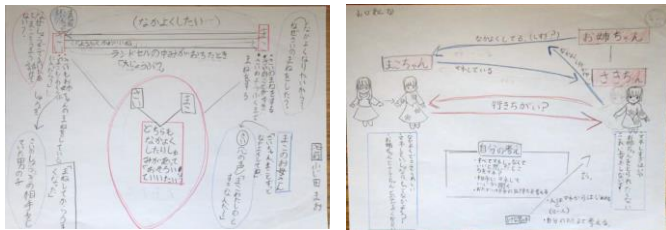
3. 振り返りの記入

自由記述を用いた活用

始めはどんなことを書いていか分からない様子だったが、登場人物の関係性などを書き始めると、考えたことがつながっていき、無言で書いていく。

→番組から考えたことを、自分なりに整理している様子が見られた。《メタ認知》

【児童がかいたもの】（一部）



児童の記述内容の要約（抜粋）

	記述内容
U・R	まこ、さいの関係性及び心理分析。「まね」することについての意見。（節度、節制）（相互理解）
O・M	まこ、さいの人間性。さいのお姉ちゃんの影響について、矢印を多用。
O・N	まこ、さいの心理について、まこの母親の願い。
O・M	まことさいの言動についての疑問、意見。「～すればいい。」（節度、節制）
S・M	まこ、さいの関係性及び心理分析。矢印を多用。主人公（さい）の葛藤について。
S・M	将棋が得意な男の子の「ばか」という言葉に反応。（礼儀）
T・A	まこ、さいの心理描写と分析。
T・A	まことさいの関係性。自分の意見「まねをやめたほうがいい」「言わないと伝わらない」（相互理解）
N・R	まことさいについての意見。「やりすぎはだめ」「自分から言ったほうがいい」（節度、節制）（相互理解）
N・S	さい、まこの関係性、心理分析と意見。「少し（マネを）やりすぎ」（節度、節制）
N・M	一人一人の登場人物について分析。関係の位置付け。「みんなのせいでさいはもやもや」
N・R	さい中心の分析。「やきもち…まねされたくない」「自分もまねしている」→よいもやもや
H・K	最初と後半のさいの意見の違いについて。「どういうこと？」
H・M	さい、まこの心理分析。お互いのずれの違いについて。
H・M	さい、まこの関係性の構図から、「本当は仲良くしたい？」のにできない。
Y・A	まことさいの関係性の構図、自分の考え。「いいと思ったところをまね」「相手に聞く」「お互い相手の気持ちを考える」（節度、節制）（相互理解、寛容）
Y・R	まことさいの関係性の構図。さいの分析中心。「わるいとは分かっていた」（相互理解）



番組を視聴し、自分だけで考えることでも、子どもはその世界に入り、3年生なりにメタ認知しながら、思考を構成することができる。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「もやもや屋」

【通常の活用】 12月末までに、7番組視聴

【自由記述】 「マネ・マナー」1回視聴

○視聴後「もやもや」する中で、登場人物の心情を追いながら、道徳的価値について考え、議論をすることができる番組である。

○ストーリー性が高く、児童が友達の発言も生かしながら考え、議論を深めることができる。

【本実践における工夫点等】

通常の活用と自由記述の両側面からのアプローチ

【通常の活用】

・空発問：児童の頭の中にあるものを自由に出させる。
→教師の求める答えではなく、自分の思いや考えを伝え、話し合いが広がる。

・考え、議論する：板書されたことや友達の発言の関係付けや意味付けをしながら話し合いが進む。

・構造的な板書：時系列ではなく、児童の発言を登場人物や内容ごとに位置付けて書く。

→関係がつながっていき、道徳的価値について考えを深める。

【自由に記述】

・自分の頭の中にある思いや考えを、自分なりに構造的に捉え、表現する。

→教師は、児童がかいたものを分析・評価する。

◎番組視聴により、児童は知識や経験、見方・考え方等を生かし、自分らしく捉えることができる。

◎自分だけで学んでも、児童は構造的に捉えることができる。

→しかし、学びを深めていくには「みんなと学ぶ」ことが大切

【本実践の成果○と課題●】

○自分なりの捉え方（感性的認識）をそのまま生かす番組活用により、児童の思考は広がった。

○通常の活用では友達の発言や板書をもとにして、自由記述では頭の中にあるものを整理しながら、児童はメタ認知している様子が見られた。

○映像で学ぶことにより、児童は内容を自分なりに構造的に捉え、道徳的価値に気付いていた。「みんなで学ぶ」ことにより、理性的認識へと深まった。

→教師は児童が捉えたものをそのまま生かせる。

●考え、議論する道徳にするためには、自由記述だけの学習を毎回行うことは適さない。